

蜂災害の 防止対策 (919)

早口署・担当区事務所 高橋 剛郎

はじめに

造林事業の労働災害の一つとして、近年特に多発し、その対策に苦慮しているものに蜂災害があげられます。

当署での蜂刺され件数は63年度の80件（うち公務疾病9件）、本年度は15件（うち公務疾病1件）で前年度より大幅に減少していますが、その対策には頭を痛めているところです。これまで「保護具の着用」等の対策を実施していますが、多発する時期が夏場の暑い季節ですから作業者にとってはかなり厳しい現状にあります。

昨年度はその対策として「誘引器」の設置等の事例を発表しましたが、今回は続報として本年度の調査結果を報告し、現場における蜂災害の防止対策として参考になれば幸いです。

1. 実施方法

昨年度発表した誘引捕殺液3種類のうち、本年度は安価で作り易く、かつ捕殺効果が比較的高い「清酒・砂糖・食酢」の混合液を、ジュース等のポリ缶を利用して作った誘引器に入れて、昨年度と同一区域に設置して蜂の生息状況を調査観察し、さらに手作りの簡易防蜂衣を製作して直接駆除も実施しました。

2. 蜂の捕殺数の対比等

本年度の気象条件の特徴として、全体的に災害多発時期の7～9月に、7～8月の異常高温と9月の長雨の影響なのか、営巣は下旬時期に発見が少なく、地ごしらえと植付時に発見されるケースが多くありました。

本調査地での営巣数および誘引器設置による捕殺数の対比は、表一1、表一2のとおりで誘引器の設置数に差がありましたが、63年度対比で大幅に減少しています。

本年度は誘引器を6月14日に設置したあと、2週間毎に捕殺数を調査しました。この結果を時期別に、表一3で分析してみますと8月までの捕殺数は全体の21%、9月1ヶ月間の捕殺数は44%、10月以降最終調査の11月29日までは35%となっています。これは前年度の直接駆除と誘引捕殺に伴う越冬蜂の減少による効果と考え

表一 1 調査箇所の営巣数

区分	キイロスズメバチ	クロスズメバチ	計
S 6 3	(5) 7	(2) 4	(7) 1 1
H 元	(1) 1	—	(1) 1

注：() 内はうち直接駆除した営巣数である。

表一 2 捕殺数の対比表

年度	設置時期	誘引器設置数	捕殺数 (匹)	対比 (%)	蜂の種類 (混入比率%)		
					キイロスズメバチ	フタモンアシナガバチ	クロスズメバチ
S 6 3 (a)	9. 6 ～ 9. 27	6	1 9 8 9	1 0 0	8 6	—	1 4
H 元 (b)	6. 14 ～ 11. 29	3	3 9 6	2 0	8 4	1 1	5

表一 3 月別捕殺数の対比表 (調査時数値)

月別	調査回数	捕殺数 (匹)	比率 (%)	蜂の種類 (匹)		
				キイロスズメバチ	フタモンアシナガバチ	クロスズメバチ
6	1	5	1	2		3
7	2	7 0	1 8	6 8	1	1
8	2	6	2	3	2	1
9	2	1 7 6	4 4	1 5 3	2 1	2
1 0	2	4 4	1 1	2 8	1 4	2
1 1	3	9 5	2 4	7 8	6	1 1
計	1 2	3 9 6	1 0 0	3 3 2	4 4	2 0

られます。

スズメバチ科の蜂は、意外と行動範囲が狭く、その沢の流域内で活動するといわれているので、誘引器の継続設置で個体数の減少を図ることにより蜂刺され災害の縮減が期待できるものと考えております。

3. 本年度実施結果の考察

(1) 蜂の食性等

蜂は春先の新緑の映える頃食性が始まり6月～9月頃までに花と樹液を求め、10月～11月には昆虫とその幼虫を食べ、また、蜂の生息箇所も一概には言えないが、春先にはクヌギ、ヤナギ等広葉樹が成立していて風当たりが少なく、陽日当たりのよいところに住みついています。

秋に広葉樹の葉が散ると、針葉樹林の陽当たりの良い昆虫類の多くいるところに移住することが確認されました。このことは誘引器をこのような条件に近いところへ設置することが最も効果が期待できることとなります。

(2) 誘引器の設置時期

越冬した女王蜂は、当地方では5月下旬～6月下旬までに巣造りを行うことから、できるだけ早い時期に誘引器を設置することが良く、個体数が少ない時期でもあるので捕殺数も当然少ないけれども、捕殺液も少量で済み、かつ最大の効果が得られるものと考えています。したがって春期を重点として、前年度に営巣の多かった作業予定地の周辺に誘引器を設置した方が効果的な対策と思います。また、秋になると雄蜂と新しい女王蜂が夏場より多く誘引器に入ることから、当地方では11月末まで設置することによって越冬蜂を減少させることができます。

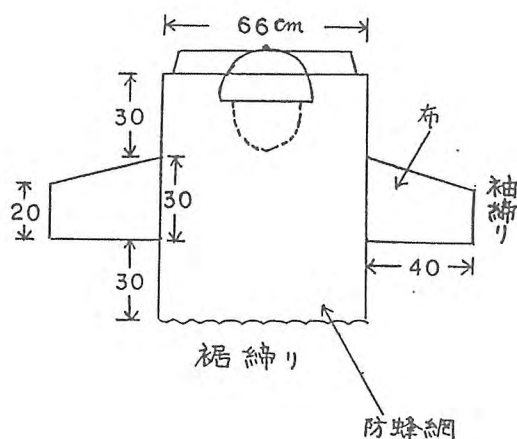
11月1ヶ月間の調査数値を見ますと捕殺数全体に対して24%を占めており、このことから見ても秋期の設置が翌年度の蜂災害防止に効果的であると思います。

(3) 営巣の直接駆除

蜂対策としては誘引器の設置と併せて営巣の直接駆除を実施することが効果的であります。この直接駆除の実施にあたっての危険を排除するため、簡易な防蜂衣「図-1」を手造りで製作し、本年度の事前見回りによる発見営巣9箇所の駆除を実施し災害防止に努めたのであわせて報告します。

図 1 直接駆除用の防蜂衣

略図



材 料 費 (円)		
品 名	数 量	金 額
ヘルメット (中古品)	1 個	-
ピースネズ (5mm)	1 組	100
オードブルの盛皿	1 枚	-
防 蜂 網 (防虫網)	1 "	300
ゴ ム ひ も	3 m	100
袖口の布切れ (廃物)	-	-
計		410

おわりに

当担当区部内の蜂災害対策の一つとして、誘引器設置等の事例を報告しましたが、このことによつて個体数の減少および越冬蜂の数を少なくすることができ、或程度蜂災害の防止に役立ったものと考えております。

特に作業者の蜂刺されの不安等、精神的な負担解消につながり、結果として安全作業と事業の順調な進展、蜂災害防止という、明るく活気ある職場づくりの一助になったことが大きな収穫であったものと思っております。

造林作業の最大課題となっている蜂災害について、今後さらに検討を加えながら、その防止に向けて努めてまいります。